【第2章】
「生きがいや喜びを感じる暮らし」の実現をめざして
～「すこやか清音をめざす会」での計画づくり～

みんなで理想の姿を描き、実現に向けて語り合おう

第２章では住民と行政が共に取り組んだ計画づくりの過程を書いています。

「生きがいや喜びを感じる暮らし」の実現をめざして取り組んでいくためには、住民と行政が力を合わせることが不可欠だと考えます。そのためには、まず健康福祉課職員全員が思いをひとつにして取り組んでいくことが重要であり、そのことを全員で確認しました。

次に住民と行政が理想の実現に向けて、ともに活動していく会をめざして「すこやか清音をめざす会」を立ち上げました。「すこやか清音をめざす会」では、「子ども」「働き盛り」「高齢者」各世代にとっての理想の姿を描き、その実現に向け何が必要かを住民と行政がともに考え、アンケート結果等による清音村の現状を確認しながら、みんなでできることは何かを話し合いました。

その結果、一人ひとりの思いを大切にして話し合い、繰り返し思いを確認しながらみんなで気持ちをひとつにしていくことで、「お互いを認める気持ち」や「お互いを思いやる気持ち」が生まれ、「人づくり・地域づくり」の基礎が作られました。

このことこそが、子どもから高齢者まですべての人が、「生きがいや喜びを感じる暮らし」を実現することにつながっていくと実感しています。

計画づくりの流れ

この「計画づくり」は以下のような流れで行っていきました。

健康福祉課職員で気持ちをひとつにしよう

↓ 住民と行政の新たな活動に向けて職員同士で思いを語り合う

「すこやか清音をめざす会」の立ち上げ

↓ 住民と行政の新たな活動を作り出す

自分の10年後の理想の姿を具体的に描こう

↓ みんなで自分の10年後の理想の姿を語り合う

「子ども」「働き盛り」「高齢者」の10年後の理想の姿を具体的に描こう

↓ それぞれの世代の人の理想の姿に目を向けてみる

理想の姿を実現するために必要なことを話し合ってみよう

↓ みんなが考える理想の姿を実現するために必要なことを語り合う

みんなで実際にできることを話し合ってみよう

↓ みんなで実際にできそうなことを語り合う

今まで描いてきた理想の姿と現状を比べてみよう

↓ 理想の姿と清音村の現状を比べる

「子ども」「働き盛り」「高齢者」のつながりを整理してみよう

↓ 見えてきたそれぞれのつながりを整理する

今まで話し合ってきたことや、話し合いの中での気づきを振り返ってみよう

↓ 今までを振り返って気持ちを一つにする

できることから実際に取り組んでみよう

理想を実現するために楽しみながらできる取り組みを考える

住民と行政の新たな一歩に向けて

今まで、健康福祉課は住民の健康や福祉の増進のために、いろいろな事業に取り組んできました。しかし、これからの保健や福祉のあり方を考えていく中で、時代に対応した新しい取り組みができるよう発想を変えていくことが必要だと考えました。

「健康福祉課のめざす姿は何だろうか」「今の取り組みが理想の姿の実現につながっているのだろうか」「本当の意味での住民主体とはどういうことなのだろうか」などと、これからの保健や福祉のあり方やそれに対する職員それぞれの思いを話し合っていく中で、住民のみなさんが描く「生きがいや喜びを感じる暮らし」の理想の姿を住民と行政が手を取り合って実現していくことが本来の仕事だと改めて考えました。このことは、保健福祉の分野だけでなく、行政すべてに共通であり行政職員みんなで取り組む必要があると考えました。

このような状況の中、「健やか親子21」「次世代育成支援地域行動計画」「健康増進計画（健康日本21）」「地域福祉計画」という４つの計画の趣旨を検討し、これから保健や福祉の取り組みをどう考えていけばいいのかを健康福祉課職員みんなで話し合いました。

こうして、職員同士で話し合うことで同じ思いを持つことができ、めざしていくものがだんだんとひとつになってきました。

ここが大切!

今までは、どんな事業やイベントをするかということを中心に考えがちで、どうしてするのかということについては十分に話し合いができていませんでした。

しかし、「生きがいや喜びを感じる暮らし」をめざしていくためには、みんなで理想の姿を描き、ともに手を携えて、お互いができることを楽しみながら取り組んでいくことが大切だと考えました。

それが、「人づくり・地域づくり」を築いていくことにつながると考えました。

「すこやか清音をめざす会」の立ち上げ

住民と行政が「生きがいや喜びを感じる暮らし」の理想の姿を描き、実現していくためには、「お互いを認める気持ち」や「お互いを思いやる気持ち」を育みながら、ともに力を出し合って活動していくことが必要です。

住民と一緒に取り組んでいくためには、まず健康福祉課職員が「生きがいや喜びを感じる暮らしの理想の姿」を具体的に描くことが必要だと考え、職員で描いてみました。その中で、一人ひとりが思いを語れるためには、雰囲気づくりや思いを引き出すための投げかけが大切だと気づきました。

この後、住民と行政が、理想の姿を描き、それを実現するために何が必要で、何ができるかをともに考え、話し合い、お互いが役割を果たし、楽しく取り組んでいくために、「すこやか清音をめざす会」の立ち上げを企画しました。

「みんなにとって参加してみようと思える会はどういう会だろう？」と考えながら、参加を呼びかけるパンフレットを作成し、各戸に配布して一般募集をしました。その結果、各年代・男女・各地区から住民のみなさん14名と社会福祉協議会職員1名、特別養護老人ホーム職員1名、役場職員11名に香川大学真鍋芳樹先生を迎えて、「すこやか清音をめざす会」が作られました。そして、第一歩が踏み出されることとなりました。

理想を描くことは楽しいなあ。どんどん明るい気分になってくる。

住民の皆さんはどんな理想の姿を描くだろう。どんな風に声をかけたら描きやすいかなあ。

ここが大切!

「話し合い」というと、示される案に対しみんなが意見を言うという事がよくあります。しかし、この方法ではみんなが話し合いのテーマについて他人事になりがちです。参加している一人ひとりが自分の事として考え、思いを語れることが大切です。

そのためには、前向きに明るく思いや考えを語れるような雰囲気づくりをしていくことが大切です。

みんなで思いを語り合おう

「すこやか清音をめざす会」が始まったときには、住民のみなさんは「自分にできることがあるのか？」「これから何をしていくのだろう？」と感じていました。行政は「みんなが思いを語れることで、楽しさや喜びを感じることができるだろうか？」「楽しかったからまた参加したいと思えるだろうか？」と思っていました。お互いがそんな不安を持ちながらのはじまりとなりました。

はじめに、住民と行政が一緒になって理想の姿を描き、その実現にむけて考え、話し合い、お互いがそれぞれの役割を果たし取り組んでいくことで、生きがいや喜びを感じていられるようにしたいという行政の思いを伝えました。

そして、まずは自分たちのことと考えていけるように自分の「生きがいや喜びを感じる暮らし」の理想の姿について語り合い、次に身近で考えやすいテーマとして「子どもの理想の姿」「働き盛りの理想の姿」「高齢者の理想の姿」について３つのグループに分かれて話し合いをしていきました。

最初の頃は、住民のみなさんに「行政の会議で自分の思いを話していいのだろうか」というとまどいの表情がみられましたが、「明るく前向きに思いを語れる雰囲気づくりにつとめること」「話し合いの流れによって投げかけをしたり聞き役にまわること」「行政の意向を押しつけないこと」「一人ひとりの発言や表情から思いを読み取り、住民のみなさんが前向きに思いを語れているかどうかに気を配ること」を職員全員が心がけました。

すると、ひとり、ふたりと思いを語りはじめ、少しずつ表情も和らぎ、参加された誰もが明るい顔で自分が描く理想の姿を語りはじめました。そして、自分の思いを少しずつ言葉にして相手に伝えていくことができるようになりました。

もっとみんなと語り合おう

お互いの思いを大切にしながら話し合いがすすんでいく中で、みんなが思いを語ることができ、相手に思いが伝わることや、みんなが自分の意見に耳を傾けてくれることに喜びを感じはじめました。そして、その喜びは積極的な発言につながりました。

さらに、自分の意見を言うだけでなく、年齢や性別に関係なく、みんなの意見を素直に受け入れることにつながりました。また、自分では思いつかないような発想や考え方に気づく中で、みんながお互いのことを認め合うようにもなりました。

このような話し合いを繰り返していくうちに、みんなのひと言ひと言が新しい気づきや発見となり、発想や考え方が少しずつ変化していきました。そして、もっとみんなで話し合いたいという思いにつながっていきました。

住民の人の発想は豊かで、幅が広いなあ。

私のいったことが役に立つのかなあ？

みんながどんどん笑顔になっていくなあ。

自分の理想が少しずつ実現していくように思えるなあ。

ここが大切!

話し合いの中では、相手の気持ちや立場になって考えるとともに、ひとりひとりの表情や言葉に細かく気を配ることが大切です。

このことは、相手の気持ちをきちんと理解し、相手を大切にしていくことにつながります。このことで、相手との信頼関係がうまれ、本音で語り合える関係になっていきます。

また、みんなの積極的な発言につながり、喜びを感じることのできる取り組みにつながっていきます。

みんなの思いを実現していこう

次に理想の姿を実現するために何が必要で、何ができるかを話し合っていきました。今までの話し合いの過程を通じて少しずつお互いを認め合い、大切に思えるようになり、お互いに本音が語れるようになってきました。

そして、「みんなで描いた理想の姿を実現していきたい」「理想を理想で終わらせたくない」といった思いがめばえ、「どんなことができるかな」「こんなことできたらいいな」「なにかやっていこう」という言葉が聞こえるようになりました。

相手の立場や気持ちを大切にしながら話し合っていくことによって、最初のころとは違い、みんなの表情はいきいきとし、話し合うことに喜びを感じるようになってきました。

みんなで話し合ったことを整理してみよう

みんなで話し合ってきたことを、「子ども」「働き盛り」「高齢者」それぞれで整理しました。みんなで整理することは、今まで話し合ってきた内容や考えを振り返る機会となり、みんなの気持ちがひとつになっていきました。（整理したものを次のページからの「みんなで話し合ってきた足跡」に載せています）

振り返ってみると、具体的なものまで話し合われたところや、まだ十分話し合われていないところがあることに気づきました。しかし、十分話し合われていないことの中にも大切なことが含まれています。今後も、住民と行政が繰り返し一緒に話し合って、思いを深めていくことが大切だと気づきました。

今までこんなに話してきたんだな。みんなの思いがいっぱい詰まっているな。

みんなの思いがこんなにたくさんあったなあ。

高齢者が元気になるには、子どもにも働き盛りの人にも役割があるんだ。

みんなで話し合ってきた足跡（子どもの理想の姿とその実現のために）

子どもの理想の姿

○男の子も女の子もたくましく育ってほしい。

○元気で明るい子に成長してほしい。

○のびのびと暮らしてほしい。

実現するために必要なことは…

○親も元気でいることが大切

○コミュニケーション、会話をしっかりする

○お父さん、お母さんが働き方を変える

○子どもが色々な経験ができるように親が仕組みをつくってあげる

○子どものつながりから親のつながり・親のつながりから子どものつながりをつくることが大切

○おせっかいなおばちゃんも地域に必要

○地域の人達とかかわり、人とのつながりを深める

○子どもに良いこと、悪いことをきちんと教える

○親も周りの人から認めてもらえる

○外で遊びまわる環境がある

○川がいつまでもきれいである

みんなで考えるといろんな発想が浮かんでくるなあ。

実際にできることは…

○おじいちゃん、おばあちゃんをお父さんお母さんが大切にする

○お手伝いが進んで楽しくできる

○いろいろなことに親子で一緒に挑戦してみる

○子どもが成長の過程で自己主張がしっかりできる

○お父さんも育児に積極的に参加する

○おじいちゃん、おばあちゃんが笑っている

○親子のスキンシップをふやす

○親も友達づくりをする

○子どものつながりから親のつながり・親のつながりから子どものつながりをつくることが大切

○おせっかいなおばちゃんも地域に必要

○地域の人達とかかわり、人とのつながりを深める

○子どもに良いこと、悪いことをきちんと教える

○親も周りの人から認めてもらえる

○必要以上に自然に手を加えない

みんなで話し合ってきた足跡（働き盛りの理想の姿とその実現のために）

働き盛りの理想の姿

○主人が近所付き合いを楽しくしている。
○リフレッシュできる仲間や場所がある。
○楽しみながら生活ができる。

実現するために必要なことは…

○自分を変えるには仲間が必要
○自分を変えていくことで周囲も変わる
○自分から社会にかかわることが必要
○「負担のある」責任ではなく「自発的」な責任を負うことが大切
○自己満足や押しつけでなく相手が喜んでくれることをする
○他の人を受け入れる心の広さを持つ
○健康・体力が必要
○地域活動には家族の理解と協力が必要
○趣味をたくさん持つと友達も大勢できる
○人を誘うことで他の人の自己変革につながる
○小さい頃からの友達付き合いが大人になっても大切
○個人を変えるには友人や近所といったまわりからの刺激も必要
○色々な世代の人と交流し話が出来る場がある
○心地よい場所がある

行政が変われば、住民とこんな素晴らしい関係になれるんだなあ。このように住民と行政が一体となった活動が大切だなあ。

実際にできることは…

○目的を持って生活する

○新しい分野にチャレンジする

○自分から心を開いて人に話しかける

○家庭円満、夫婦仲良くする

○夫婦の話し合い　たわいないおしゃべりをする

○家族で何かをやってみる

○趣味を通じて友達づきあいをする

○友達を増やすためにコミュニケーションをしっかりとる

○井戸端会議でいろいろな情報を入れる

○いたるところにベンチを置いて話ができる機会をつくる

具体的にどのように取り組んでいくかみんなで考えていこう

みんなで話し合ってきた足跡（高齢者の理想の姿とその実現のために）

高齢者の理想の姿

○みんなが集まってお茶が飲める。
○尊厳を持ってほしい。
○子どもや孫と仲良く暮らしたい。

実現するために必要なことは…

○家庭の中で自分の役割がある
○夫婦で仲良く過ごせる
○近所の人と挨拶ができる間柄になる
○家の中でもできる趣味がある
○一緒に趣味を楽しむ仲間がいる
○趣味を楽しむには家族の理解が必要
○みんなが集まれるオープンな場所がある
○いつまでも元気でいる
○集まる場所まで行く方法がある
○新しいことにチャレンジする気持ちがある
○身なりを整えられる
○相手を思いやる気持ちを持つ
○孫や子どもに教えられるものがある
○孫や子どもに知らないことを教えてくれる
○老後の不安のない生活がある
○一人になっても生きていける力とシステムが必要

この場では、心がやわらかくなるなあ。希望がわいてくるよ。

僕の仕事にも関わることがたくさんあるなあ。

実際にできることは…

○趣味を持っておく

○普段から近所の人と話をする

○名前で呼び合えるお付き合いをする

○できるだけボランティアを心がける

○孫を肝心な時だけ叱ってくれる

○高齢者も子育てに参加する

○気軽に集まれるサロンがある

○趣味ができる元気な体づくりをする

○高齢者が家に閉じこもらないようにする

○ありがとう、ごめんなさいがお互いに言える

○子どもと日頃から会話をする

○昔の体験を教えてくれる機会をふやす

○子どもや孫にお金（物）を与えるだけでなく、自分の特技や昔の様子など話してあげる

具体的にどのように取り組んでいくかみんなで考えていこう

みんなの思いの振り返り

「すこやか清音をめざす会」を立ち上げてから、住民と行政が一緒に考え、話し合いをしてきたことをここで振り返ってみました。みんなで「理想の姿を実現するためには子どもも、働き盛りも、高齢者もみんな役割があるんだね」「自分にもできることがあるんだ」「自分たちの理想の姿を描いたけど、清音村のみんなに共通することなんだ」ということを確認し合いました。

また、「自分の思いを言葉にして相手に伝える大切さ」「お互いの思いを大切すること」「みんなで思いをひとつにしていく喜び」「信頼すること、仲間になっていくことの素晴らしさ」「住民と行政は同じ理想の姿をめざす仲間である」などもみんなで確認できました。話し合いを重ね、思いを確認し合っていく中で、みんなの絆はとても深いものになっていきました。それは、みんなが同じ目標に向かって、お互いを大切に思いながら、仲間として信頼しあい、遠慮なく気さくに話し合ってきたからだと感じました。

行政の人も一緒にがんばっていこうね。

話をしていくと、考え方が変わってくるなあ。

みんなのことを思って、お寿司を作ってくれるなんて、ありがたいことだよなあ。

いつもみんなで一生懸命話をするから、みんなのために、お寿司を作ってきたの。

ここが大切!

取り組みが進んでいくと、何をめざして取り組んでいたかが分からなくなったり、みんなの気持ちがずれていったりすることがあります。何度も、みんなで思いを振り返り、気持ちをひとつにしていくことで、みんなが同じ理想の姿に向かって取り組むことができます。

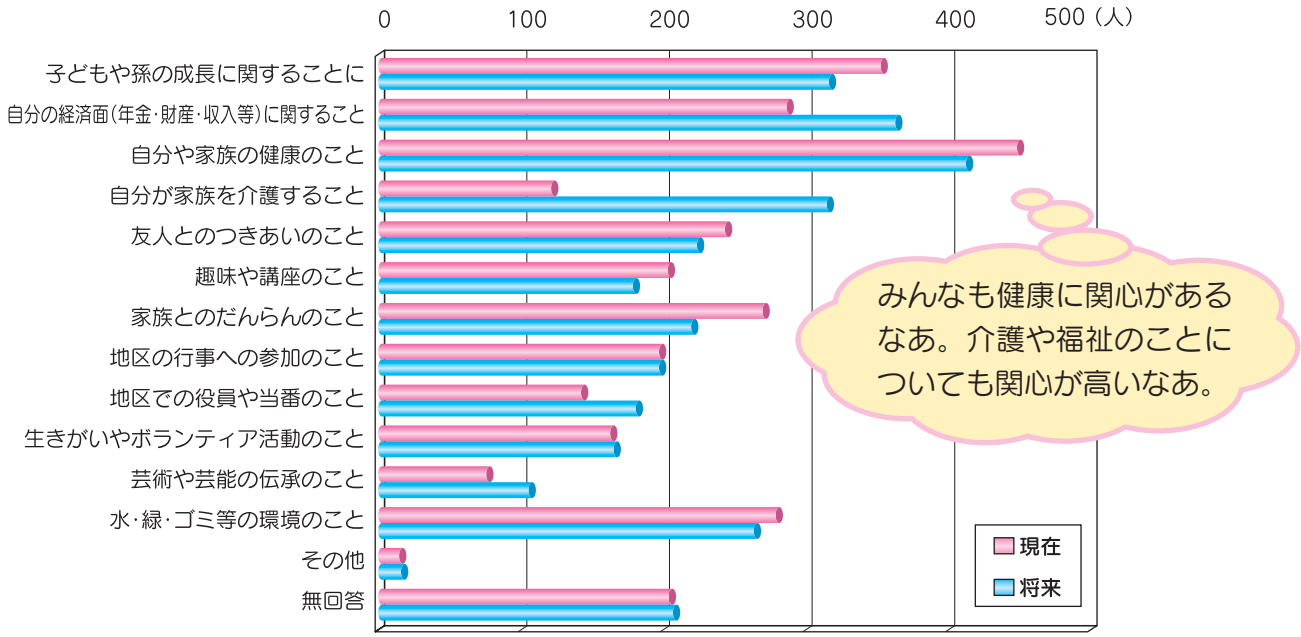
みんなの思いと清音村の現状

みんなで気持ちをひとつにしながら理想の姿を描き、実現するために何が必要か、できることは何かを話し合ってきました。この理想を実現するために、今の清音村の状況や他の住民のみなさんの気持ちを知ることが大切だと思い、平成14年に実施した健康づくりアンケート結果をみんなで確認しました。

みんなで話し合ったことについて清音村の現状を知って理解するためには、アンケート結果をどのようにまとめればよいかを考え、見やすくわかりやすい資料を作りました。みんなで描いてきた理想の姿を実現するために見ていくデータは、何をしていけばいいかを気づくきっかけになり今後の活動につながる生きたデータになりました。

今までは、ただ単にアンケート結果を見て問題点を探し、そのことを改善していくためにアンケートを利用しがちでしたが、このことも大きな気づきとなりました。

【質問　あなたは地域や家庭において「現在」と「今後」で関心のあることは何ですか】

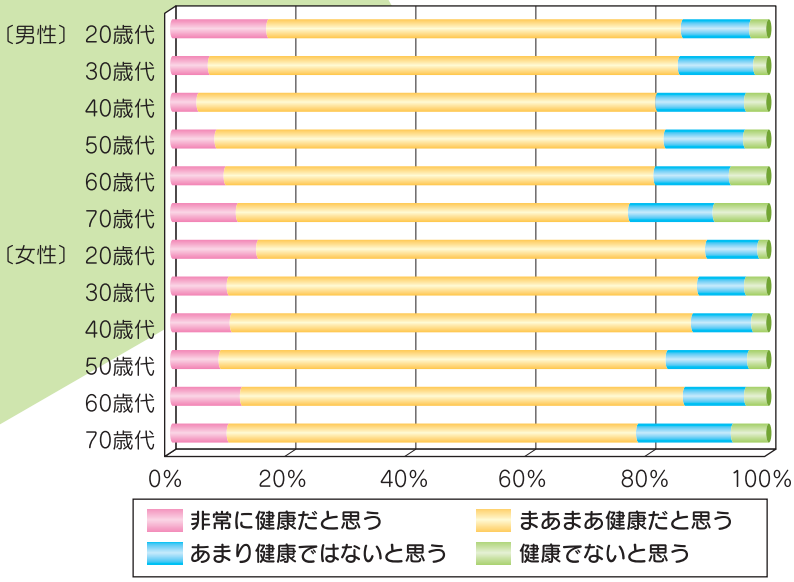


ここが大切!

理想の姿を描くだけでは「絵に描いた餅」になりがちです。

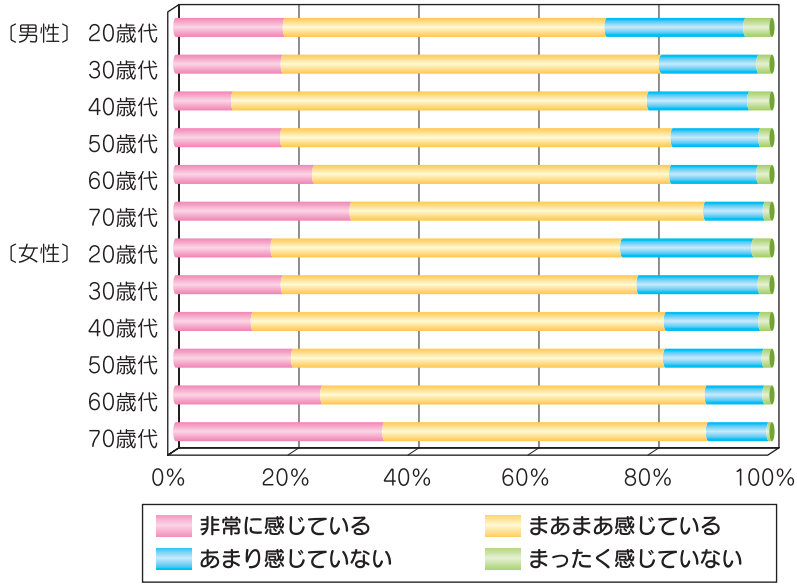
理想の姿を描きながら、一方で現実をしっかり見ることも必要です。地域や住民のみなさんの現実の姿を確認するためにアンケート結果はとても大切なものになります。

【質問　あなたは今の健康状態をどのように思いますか】



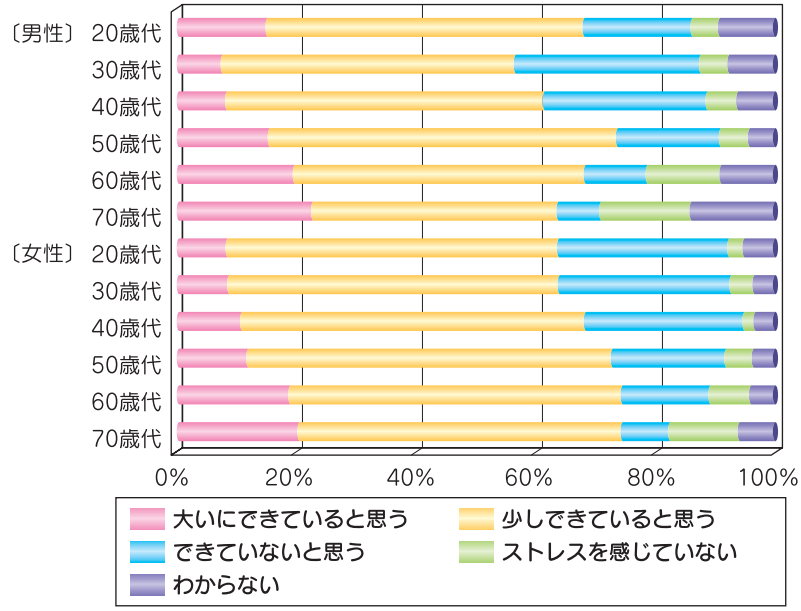
30～50歳の働き盛りの人は、非常に健康と感じている人が少ないんだ。でも何があれば健康と感じるんだろう。

【質問　あなたは生きがいを感じていますか】

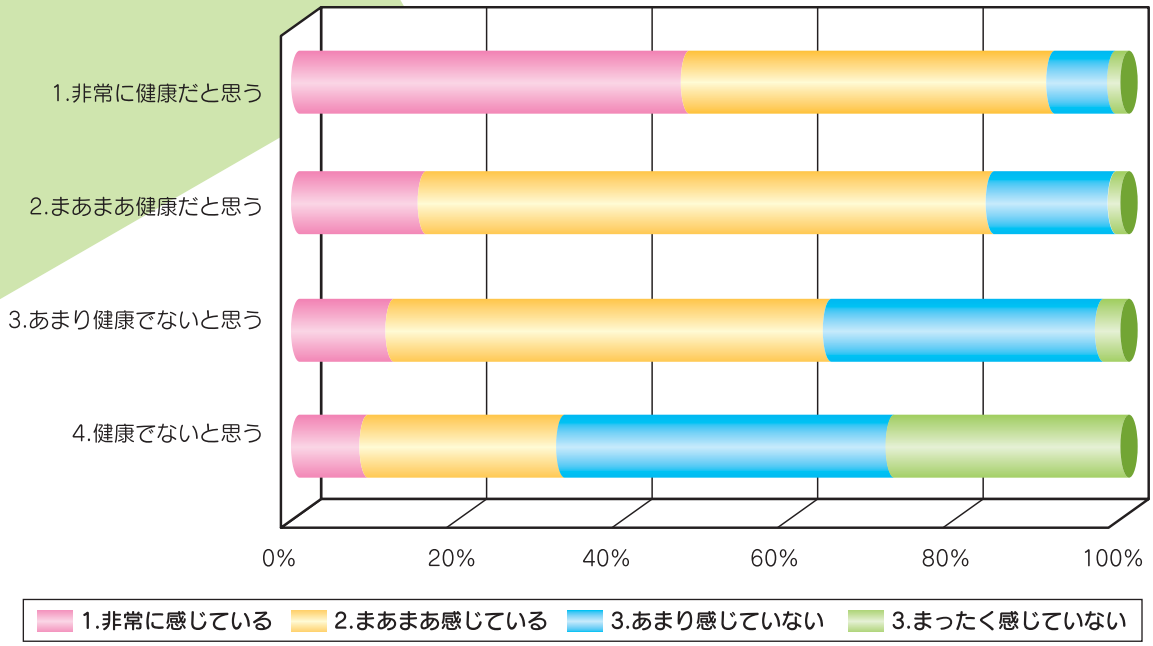


働き盛りの人は、生きがいを感じていないなあ。でも、働き盛りの人たちにとって生きがいってなんだろう？

【質問　あなたはストレス解消できていると思いますか】



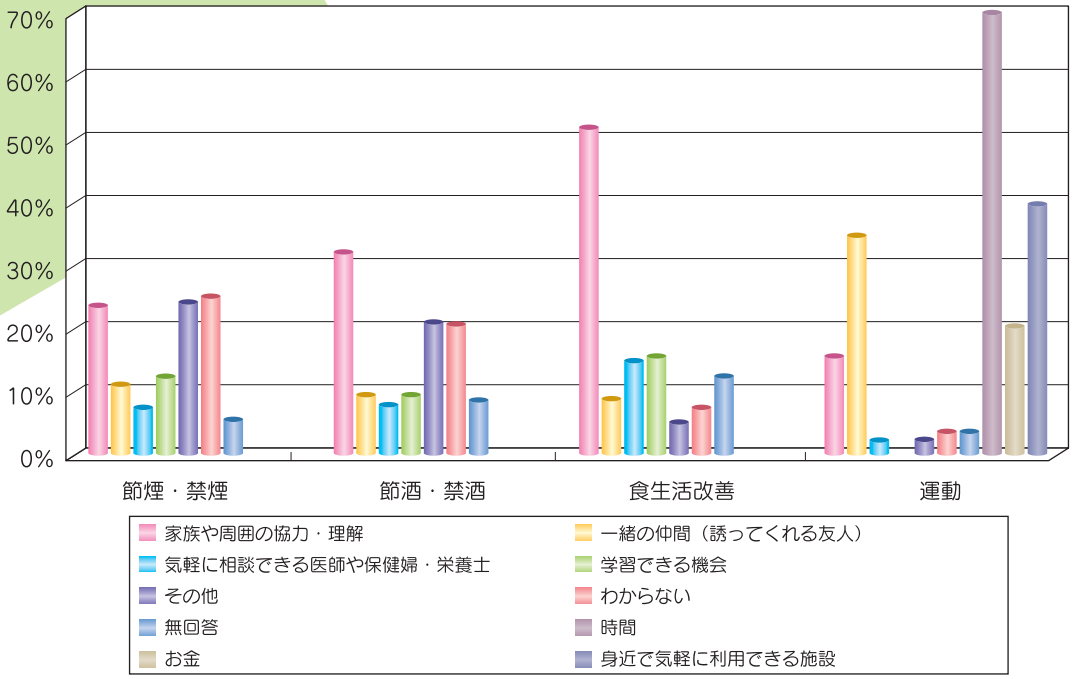
【質問　「あなたは今の健康状態をどのように思いますか」と「あなたは生きがいを感じていますか」との関連】



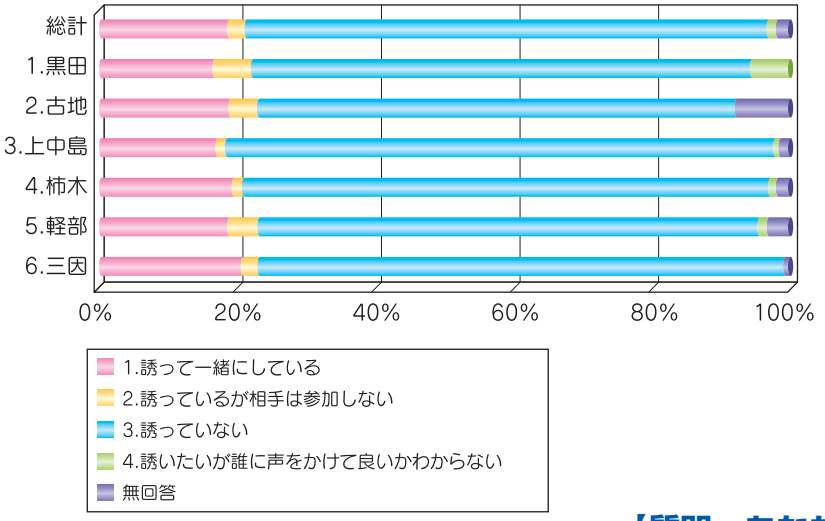
アンケート結果ってわかりにくいものと思っていたけど、こうすればよくわかるなあ。

自分達が話してきたことと数字を見比べてみると、気づくものがたくさんあるなあ。

【喫煙、飲酒、バランスのとれた食生活、運動について、現在は好ましい状況でないと回答した者のうち好ましい状況へ改善したいと回答している者の割合】

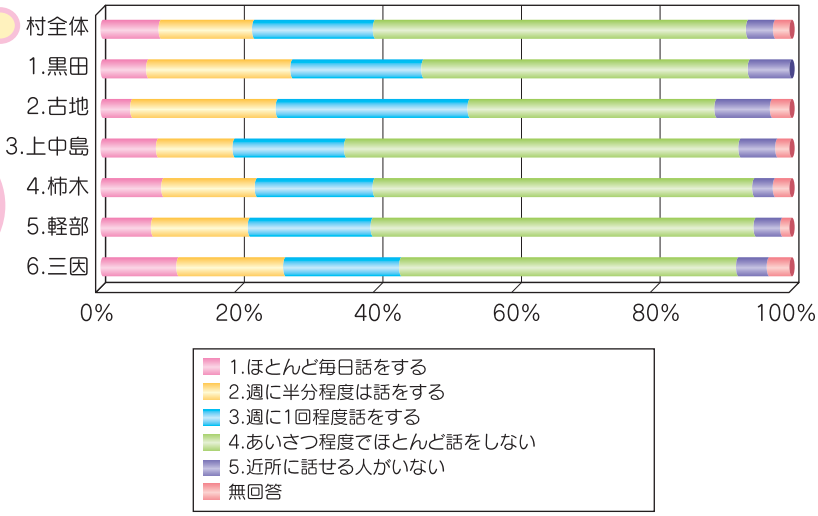


【質問　あなたが運動するとき、近所の人を誘っていますか】



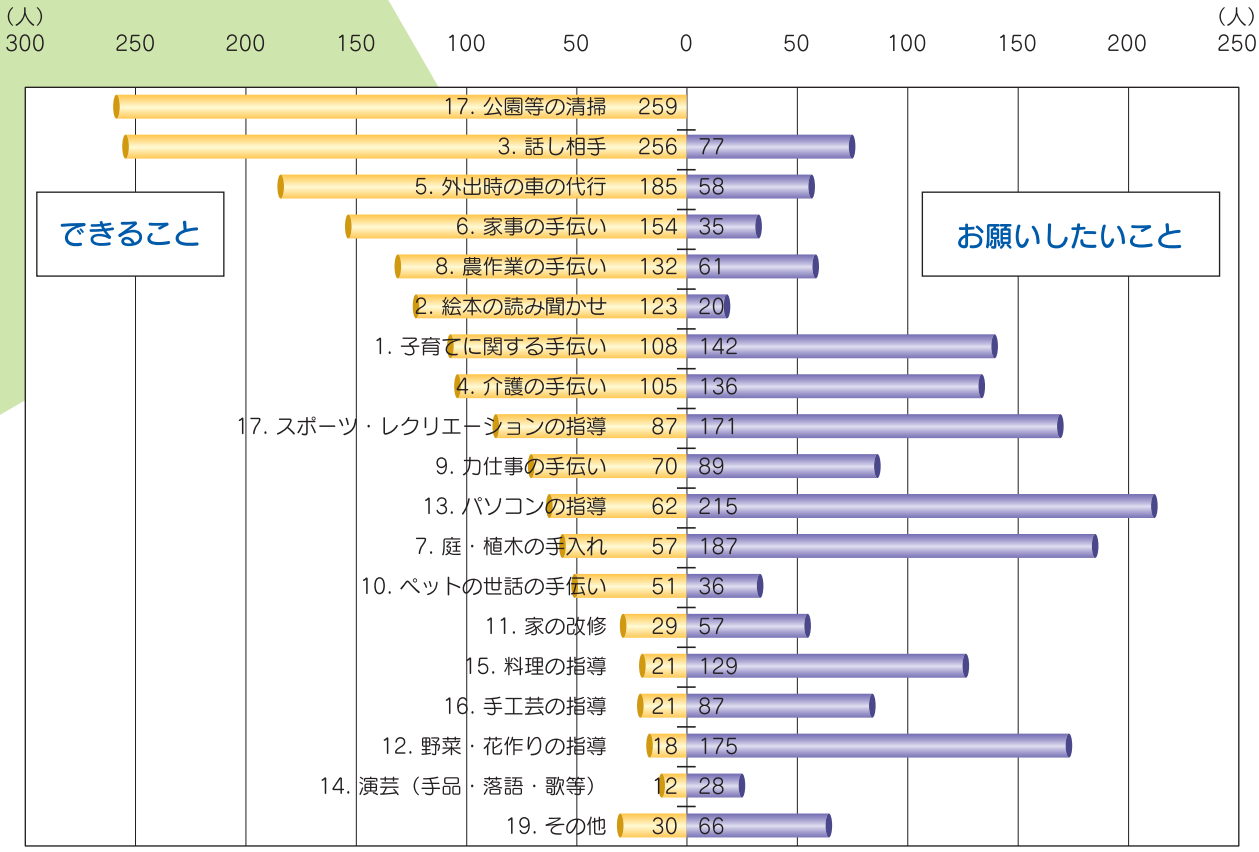
みんな生活を変えるのには、家族や周囲の協力なしにはできないと思っているんだ。

【質問　あなたは近所の人と話をしますか】



みんなの誘いかけが必要と思っているけど、近所の人との話はあまりしてないのが現状なんだなあ。

【質問　みなさんが地域や近所の人にできること、お願いしたいこと】



子どもから高齢者までのかかわりがみんなで話してみるとよくわかるなあ。

みんなの思いとアンケート結果が合わさると鬼に金棒だなあ。

これだけみんなの力で話してきて、すばらしい夢が描けたんだから、きっと何かできるはず。

「子ども」「働き盛り」「高齢者」のつながりを見てみよう

「子ども」「働き盛り」「高齢者」の３つのグループで、それぞれの理想の姿と、そのために必要なこと、実際に出来ることを話し合ってきました。各グループで出た意見を、みんなで確認すると、同じ意見がたくさん出ていることに気づきました。

グループ別に理想の姿を描き、そのために必要なことを考えてきましたが、それぞれの理想の姿を実現していくためには、どの世代ともつながっているのではないかと感じ始めました。そこで、どのようにつながっているのかを確認してみました。

みんなで出し合った意見を、整理していってみると「子ども」の理想の姿を実現するためには「おじいちゃん、おばあちゃんが元気でないといけない」、「働き盛り」にとっては「世代を超えて交流できる場が必要」、「高齢者」にとっては「子どもや孫に教えられるものがある」というように、１つの世代を考えた時、他の世代が深く関わっているということが確認できました。

今までは、３つのグループに分かれて話し合ってきましたが、それぞれの理想の姿を実現するためには、「子ども」「働き盛り」「高齢者」のことを別々に取り組むのではなく、つながりを考えて取り組むことで実現できると感じました。そこで、実際の行動に向けてグループの枠を取り払い、みんなで一緒に話をし、思いを一つにして取り組んでいくことにしました。

このことは、健やか親子21・次世代育成支援地域行動計画・健康増進計画（健康日本21）・地域福祉計画を実現していくこととも共通していて、４つの計画をあわせて取り組んでいくことにより、それぞれの計画の理念を達成していくことができると実感しました。

住民と行政は、こんなにも身近な関係になっていけるんだなあ。

みんなの思いをすべて詰め込もうよ。

できることからやっていこう

ここまで描いた理想の姿を実現していくために、実際にできることはどんなことがあるか話し合いました。みんなの思いを大切にしながら、話し合いをしていくことにより、みんなが話し合ったことを自分たちのこととしてとらえ、自分達でできることを何かしていきたいといった思いが生まれてきました。

そこで、今度は「何かしたい」という思いや「自分にもできることは何かある」といった思いを大切にしながら、「みんなで楽しみながらできることを継続してやっていこう」ということになりました。

相手の思いを大切にしながら話し合っていくことは、それぞれの持っている力を引き出しあうことができ、相手に喜ばれることで、さらに自分の喜びが増していくと感じました。

私もまだまだできることがありそうだなあ。

子どものための取り組みは、高齢者のための取り組みでもあるんだ。みんなが関わって始めて子どもにとって住みよい地域になるんだもんなあ。

ここが大切!

ひとりひとりの思いを大切にしながら、話し合っていくことで、みんなが自分の事としてとらえることができます。そうすると、自分達が描いた理想の姿に向かって、自分達で活動していきたいという気持ちが生まれてきます。

この気持ちを大切にしながら、理想の姿に向かってみんなが少しずつ役割を持って自分の出来ることを取り組んでいくことが大切です。

取り組みを通じて住民が気づいたこと、感じたこと

話し合いを通じて、住民も行政もいろいろな気づきがありました。その気づきは、これからの住民と行政との関係にとても大切で必要なものだと感じました。

始めのころの気持ち

☆ なかなか行政と住民が対等な立場で話し合うことがない。場がない。
☆ 行政の職員に笑顔がない。
☆ 頼まれたら断りきれなかった。
☆ 私が会に参加して何になるの。
☆ 私何もできないわ。
☆ 行政の会議は思っていても言えない雰囲気。

話し合いが進むにつれて

☆ 話し合いの方法やその場の雰囲気がよかった。
☆ 自分の言った意見を取り入れてもらえる。
☆ 自分以外の人の話を聞くようになってきた。
☆ 相手を認め、相手の意見を聞くことの大切さがわかった。
☆ 尊厳をもって生きることが大切。自分もみんなも。
☆ 心がやわらかくなった。
☆ 本音で話し合いができた。人柄が見える。
☆ しっかり考える時間が持てた。

話し合いを重ねてきた今の気持ち

☆ 道であってもあいさつできる人が増えた。
☆ 行政の職員とあいさつできるようになった。
☆ みんな心がうちとけた。
☆ 本音でいろいろ話ができるのは初めて。
☆ 自分の子どもと向き合って話をしようと思った。
☆ 自分が変わらないといけないなあ。
☆ こういう会がたくさんあれば自殺しなくてすむ。
☆ 職員の頑張りがあったからこそここまで出来た。
☆ 部下の仕事を支える課長の存在が大きい。
☆ この会での役割ができている。
☆ 高齢者と働き盛りの人の様子がよくわかる。
☆ 相手の心を理解するようになった。

取り組みを通じて行政が気づいたこと、感じたこと

行政もこの取り組みを通じて、多くのことを学びました。行政の気づきは、どの取り組みにも通じているものでした。

始めのころの気持ち

☆ 行政案も持たずに住民を集めたのかと言われるのではないか。
☆ 行政の考えがあるのだろう、行政案を示すようにといわれるのではないか。
☆ 手抜きの会議をしている、準備が悪いと言われるのではないだろうか。
☆ 要望、陳情を言われるのではないか。
☆ 住民の人に理想の姿を語ってくださいといっても話が出るのだろうか。
☆ 住民の人は語ることを楽しいと思ってもらえるだろうか。

話し合いが進むにつれて

☆ 話し合いに参加するのが楽しいと言ってもらえた。
☆ 住民の人が自分から発言するようになってきた。
☆ みんなが自分たちの事として考えてくれるようになった。
☆ みんながお互いを認め合い始めた。
☆ 行政が変わろうと努力していることを理解してくれた。
☆ 行政のことを信頼してくれるようになってきた。
☆ 住民の本音が聞けるようになった。
☆ 住民は素晴らしい力を持っていることに気づいた。

話し合いを重ねてきた今の気持ち

☆ 住民の人の気持ちを聞かないで仕事はできない。
☆ 住民一人ひとりの思いを大切にしていかなければならない。
☆ 本当の意味での住民の人のための仕事をしていると感じることができる。
☆ 明確な目標を持って仕事に取り組める。
☆ すべての仕事のあり方を考え直す機会になった。
☆ この活動を発展させていかなければならない。
☆ 住民と行政は「人づくり・地域づくり」のパートナーである。